中国２　「文法」に関する問題①

年　組　番　氏名

一　次の文章に用言はいくつありますか。数字で答えなさい。

ああ、神々も照覧あれ！　濁流にも負けぬ愛と誠の偉大な力を、いまこそ発揮して見せる。

（太宰治『走れメロス』より）

二　次の⑴～⑶の―線部の動詞の　①活用の種類　と　②活用形　を答えなさい。

⑴　外出しない日が多かった。

①

②

⑵　約束したことは守れよ。

①

②

⑶　考えればわかることだ。

①

②

三　次の文章から、①形容詞　と　②形容動詞　をそのままの形で抜き出し、それぞれの活用形を答えなさい。

芋の葉を、白く裏返して風が渡って行く。葬列は彼のほうに向かってきた。中央に、写真の置かれている粗末な柩がある。写真の顔は女だ。

（山川方夫『夏の葬列』より）

①形容詞

活用形

②形容動詞

活用形

中国２　「文法」に関する問題②

年　組　番　氏名

一　次の文章の―傍線部①～⑥の名詞の種類を次から選び記号で答えなさい。

①オツベルときたら大したもんだ。②それにこの前稲扱小屋で、うまく自分のものにした、③象もじっさい大したもんだ。力も④二十馬力もある。

（宮沢賢治『オツベルと象』より）

ア　普通名詞　イ　固有名詞　ウ　代名詞　エ　数詞
オ　形式名詞

①［　　］
②［　　］
③［　　］
④［　　］

二　次の各文から、①連体詞 と ②副詞 を抜き出し答えなさい。

⑴君がいきなり大きな音を出すから驚いたよ。

①［　　］
②［　　］

⑵この問題をどうして僕は間違えたのだろう。

①［　　］
②［　　］

三　次の各文の（　　）に当てはまる接続詞を後から選び、記号で答えなさい。

⑴今日は雨が降っている。（　　）、体育祭は挙行された。［　　］

⑵昼食はカレーにするか、（　　）炒飯（チャーハン）にするか迷っている。［　　］

ア　そして　イ　それとも　ウ　すると　エ　ゆえに
オ　しかし　カ　それから　キ　しかも　ク　さて

四　次の―傍線部の意味を後から選び、記号で答えなさい。

○ええっ、いつの間に引っ越されたんですか？［　　］

ア　感動　イ　応答　ウ　呼びかけ　エ　あいさつ

中国２　「文法」に関する問題③

年　組　番　氏名

一　次の―傍線部の助詞が格助詞であるものを選び記号で答えなさい。

(1)
ア　新しい自転車が、やっと届いた。
イ　部活の練習はきついが、楽しい。

(2)
ア　焼肉屋から、いい匂いがしている。
イ　知っていたから、対応ができた。

(3)
ア　彼の言うことは、全く信用できない。
イ　今度の旅行からは、いつ帰ってくるの。

二　次の―傍線部が助動詞であるものを選び記号で答えなさい。

(1)
ア　落花生は、ここ千葉県を代表する農産物だ。
イ　今日は暑いせいか、なんだか教室が静かだ。

(2)
ア　彼のやり方は客観的に見てフェアではない。
イ　この魚は、この地域ではあまり見かけない。

(3)
ア　紅葉も色づきすっかり秋らしくなってきた。
イ　もうすぐ雨が降るらしく黒い雲がでてきた。

三　次の―線部の助動詞の意味を後から選び、記号で答えなさい。

(1)　一人暮らしをしている祖母のことが案じられる。

(2)　このスーパーは、年配のお客様がよく来られる。

(3)　養老渓谷では秋になると美しい紅葉が見られる。

ア　受け身　　イ　尊敬　　ウ　可能　　エ　自発

中国２　「文法」に関する問題④

年　組　番　氏名

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

オツベルときたら大したもんだ。稲扱器械の六台も据えつけて、のんのんのんのんのんのんと、大そろしない音をたててやって①いる。

十六人の百姓どもが、顔をまるっきりアまっ赤にして足で踏んで器械をまわし、小山のように積まれた稲を片っぱしから扱いてA行く。藁はどんどんうしろの方へ投げられて、また新しい山に②なる。そこらは、籾や藁から発ったイこまかな塵で、変にぼうっと黄いろになり、まるで沙漠のけむりのようだ。

そのBうすくらい仕事場を、オツベルは、ウ大きな琥珀のパイプをくわえ、吹殻を藁に落さCないよう、眼を細く③して気をつけながら、両手を背中に組みあわせて、ぶらぶら往ったり④来たりする。

小屋はずいぶんエ頑丈で、学校ぐらいもあるのだが、何せ新式稲扱器械が、六台もそろってまわってるから、のんのんのんのんふるうのだ。中にはいるとそのために、すっかり腹が空くほどだ。Dそしてじっさいオツベルは、そいつで上手に腹をへらし、ひるめしどきには、E六寸ぐらいのビフテキだの、雑巾ほどあるオムレツの、ほくほくしたのを⑤たべるのだ。

（宮沢賢治『オツベルと象』より）

(1) 文章中の―線部ア～エのうち、他と品詞が違うものを一つ選び、記号で答えなさい。

[　　]

(2) 文章中の＝線部A～Eの品詞を次から選び、記号で答えなさい。

ア　名詞　　イ　動詞　　ウ　形容詞　　エ　形容動詞　　オ　連体詞
カ　副詞　　キ　接続詞　　ク　感動詞　　ケ　助詞　　コ　助動詞

A	B	C	D	E

(3) 文章中の波線部①～⑤の活用の種類を次から選び、記号で答えなさい。

ア　五段活用　　イ　上一段活用　　ウ　下一段活用
エ　カ行変格活用　　オ　サ行変格活用

①	②	③	④	⑤

中国２　「文法」に関する問題⑤

年　組　番　氏名

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

海岸のア小さな町の駅に下りて、彼は、しばらくはものめずらしげにあたりを眺めていた。駅前の風景はすっかり変っていた。アーケードのついた明るいマーケットふうの通りができ、その道路も、固く①鋪装されてしまっている。はだしのまま、砂利（じゃり）の多いこの道を駈（か）けて通学させAられた小学生の頃の自分を、B急に②なまなましく彼は思い出した。あれは、戦争の末期だった。彼はいわゆる疎開児童として、この町にまる三カ月ほど住んでいたのだった。――あれ以来、おれは一度もこの町をたずねたことがない。イその自分が、いまは大学を出、就職をし、一人前の出張がえりのサラリーマンの一人として、ウこの町に来ている……。

東京には、明日までに③帰ればよかった。二、三時間は充分にCぶらぶらできる時間がある。彼は駅の売店で煙草（たばこ）を買い、エそれに火を点（つ）けると、ゆっくりと歩きだした。

夏の真昼だった。小さな町のD家並みはすぐに尽きて、昔のままの踏切りを越えると、線路に沿い、両側にやや起伏のある畑地がひろがる。彼は目を細めEながら歩いた。遠くに、かすかに海の音がしていた。

（山川方夫『夏の葬列』より）

(1) 文章中の―線部ア～エのうち、他と品詞が違うものを一つ選び、記号で答えなさい。

(2) 文章中の＝線部A～Eの品詞を次から選び、記号で答えなさい。

ア 名詞　イ 動詞　ウ 形容詞　エ 形容動詞　オ 連体詞
カ 副詞　キ 接続詞　ク 感動詞　ケ 助詞　コ 助動詞

A　B　C　D　E

(3) 文章中の波線部①～③の活用形を次から選び、記号で答えなさい。

ア 未然形　イ 連用形　ウ 終止形
エ 連体形　オ 仮定形　カ 命令形

①　②　③

中国２　「文法」に関する問題⑥

年　組　番　氏名

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「Aああ、あなたは気が狂ったか。　Bそれでは、うんと走るがいい。ひょっとしたら、間に合わぬものでもない。走るがいい。」

言うにや及ぶ。まだ陽（ひ）は沈まぬ。最後の死力を尽して、メロスは走った。

メロスの頭は、からっぽだ。何一つ考えていない。ただ、わけのわからぬ大きな力にひきずられて走った。陽は、Cゆらゆら地平線に没し、まさに最後の一片の残光も、消えようとした時、メロスは疾風の如く刑場に突入した。間に合った。

「待て。その人を殺してはならぬ。メロスが帰って来Dた。約束のとおり、いま、帰って来た。」と大声で刑場の群衆にむかって叫んだつもりであったが、喉（のど）がつぶれて嗄（しわが）れた声がE幽（かす）かに出たばかり、群衆は、ひとりとして彼の到着に気がつか①ない。すでに磔（はりつけ）の柱が高々と立てられ、縄を打たれたセリヌンティウスは、徐々に釣り上げられてゆく。メロスはそれを目撃して最後の勇、先刻、濁流を泳いだように群衆を掻きわけ、掻きわけ、

「私だ、刑吏！　殺されるのは、私だ。メロスだ。彼を人質にした私は、Fここにいる！」と、かすれた声で精一ぱいに叫びながら、ついに磔台に昇り、釣り上げられてゆく友の両足に、齧（かじ）りついた。群衆は、どよめいた。あっぱれ。ゆるせ、と口々にわめいた。セリヌンティウスの縄は、ほどかれたのである。

（太宰治『走れメロス』より）

(1)　文章中の―線部①と同じ品詞の「ない」が使われている文を、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　雲がかかっているせいで、今日は月が見えない。
イ　水泳を習っているが、まだ泳ぎはうまくない。
ウ　こんな大きなかぶと虫は、見たことがない。
エ　頑張った割には、得られたものが少ない。

(2)　文章中の＝線部A～Fの品詞を次から選び、記号で答えなさい。

ア　名詞　イ　動詞　ウ　形容詞　エ　形容動詞　オ　連体詞
カ　副詞　キ　接続詞　ク　感動詞　ケ　助詞　コ　助動詞

A	B	C	D	E	F

中国２　「文法」に関する問題①　解答

一　次の文章に用言はいくつありますか。数字で答えなさい。

ああ、神々も照覧あれ！　濁流にも負けぬ愛と誠の偉大な力を、いまこそ発揮して見せる。

（太宰治『走れメロス』より）

5

二　次の(1)～(3)の―線部の動詞の　①活用の種類　と　②活用形　を答えなさい。

(1)　外出しない日が多かった。

①　**サ行変格活用**

②　**未然形**

(2)　約束したことは守れよ。

①　**五段活用**

②　**命令形**

(3)　考えればわかることだ。

①　**下一段活用**

②　**仮定形**

三　次の文章から、①形容詞　と　②形容動詞　をそのままの形で抜き出し、それぞれの活用形を答えなさい。

芋の葉を、白く裏返して風が渡って行く。葬列は彼のほうに向かってきた。中央に、写真の置かれている粗末な柩がある。写真の顔は女だ。

（山川方夫『夏の葬列』より）

①形容詞　**白く**　活用形　**連用形**

②形容動詞　**粗末な**　活用形　**連体形**

中国２　「文法」に関する問題②　解答

一　次の文章の―傍線部①～⑥の名詞の種類を次から選び記号で答えなさい。

①オツベルときたら大したもんだ。②それにこの前稲扱小屋で、うまく自分のものにした、③象もじっさい大したもんだ。力も④二十馬力もある。

（宮沢賢治『オツベルと象』より）

ア　普通名詞　　イ　固有名詞　　ウ　代名詞　　エ　数詞
オ　形式名詞

①　イ
②　ウ
③　ア
④　エ

二　次の各文から、①連体詞　と　②副詞　を抜き出し答えなさい。

(1)君がいきなり大きな音を出すから驚いたよ。

①　大きな
②　いきなり

(2)この問題をどうして僕は間違えたのだろう。

①　この
②　どうして

三　次の各文の（　　）に当てはまる接続詞を後から選び、記号で答えなさい。

(1)今日は雨が降っている。（しかし）、体育祭は挙行された。

オ

(2)昼食はカレーにするか、（それとも）炒飯（チャーハン）にするか迷っている。

イ

ア　そして　　イ　それとも　　ウ　すると　　エ　ゆえに
オ　しかし　　カ　それから　　キ　しかも　　ク　さて

四　次の―傍線部の意味を後から選び、記号で答えなさい。

○ええっ、いつの間に引っ越されたんですか？

ア

ア　感動　　イ　応答　　ウ　呼びかけ　　エ　あいさつ

中国２　「文法」に関する問題③　解答

一　次の―傍線部の助詞が格助詞であるものを選び記号で答えなさい。

(1)
ア　新しい自転車が、やっと届いた。
イ　部活の練習はきついが、楽しい。

ア

(2)
ア　焼肉屋から、いい匂いがしている。
イ　知っていたから、対応ができた。

ア

(3)
ア　彼の言うことは、全く信用できない。
イ　今度の旅行からは、いつ帰ってくるの。

ア

二　次の―傍線部が助動詞であるものを選び記号で答えなさい。

(1)
ア　落花生は、ここ千葉県を代表する農産物だ。
イ　今日は暑いせいか、なんだか教室が静かだ。

ア

(2)
ア　彼のやり方は客観的に見てフェアではない。
イ　この魚は、この地域ではあまり見かけない。

イ

(3)
ア　紅葉も色づきすっかり秋らしくなってきた。
イ　もうすぐ雨が降るらしく黒い雲がでてきた。

イ

三　次の―線部の助動詞の意味を後から選び、記号で答えなさい。

(1)　一人暮らしをしている祖母のことが案じられる。

エ

(2)　このスーパーは、年配のお客様がよく来られる。

イ

(3)　養老渓谷では秋になると美しい紅葉が見られる。

ア　受け身　　イ　尊敬　　ウ　可能　　エ　自発

ウ

中国２　「文法」に関する問題④　解答

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

オツベルときたら大したもんだ。稲扱器械の六台も据えつけて、のんのんのんのんのんのんと、大そろしない音をたててやって①いる。

十六人の百姓どもが、顔をまるっきりアまっ赤にして足で踏んで器械をまわし、小山のように積まれた稲を片っぱしから扱いてA行く。藁はどんどんうしろの方へ投げられて、また新しい山に②なる。そこらは、籾や藁から発ったイこまかな塵で、変にぼうっと黄いろになり、まるで沙漠のけむりのようだ。

そのBうすくらい仕事場を、オツベルは、ウ大きな琥珀のパイプをくわえ、吹殻を藁に落さCないよう、眼を細く③して気をつけながら、両手を背中に組みあわせて、ぶらぶら往ったり④来たりする。

小屋はずいぶんエ頑丈で、学校ぐらいもあるのだが、何せ新式稲扱器械が、六台もそろってまわってるから、のんのんのんのんふるうのだ。中にはいるとそのために、すっかり腹が空くほどだ。Dそしてじっさいオツベルは、そいつで上手に腹をへらし、ひるめしどきには、E六寸ぐらいのビフテキだの、雑巾ほどあるオムレツの、ほくほくしたのを⑤たべるのだ。

（宮沢賢治『オツベルと象』より）

(1) 文章中の―線部ア～エのうち、他と品詞が違うものを一つ選び、記号で答えなさい。　※ウは連体詞、他は形容動詞

ウ

(2) 文章中の＝線部A～Eの品詞を次から選び、記号で答えなさい。　**形容動詞の活用をさせて確認しよう。**

ア　名詞　イ　動詞　ウ　形容詞　エ　形容動詞　オ　連体詞
カ　副詞　キ　接続詞　ク　感動詞　ケ　助詞　コ　助動詞

A	B	C	D	E
イ	ウ	コ	キ	ア

(3) 文章中の波線部①～⑤の活用の種類を次から選び、記号で答えなさい。

ア　五段活用　イ　上一段活用　ウ　下一段活用
エ　カ行変格活用　オ　サ行変格活用

①	②	③	④	⑤
イ	ア	オ	エ	ウ

中国２　「文法」に関する問題⑤　解答

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

海岸のア小さな町の駅に下りて、彼は、しばらくはものめずらしげにあたりを眺めていた。駅前の風景はすっかり変っていた。アーケードのついた明るいマーケットふうの通りができ、その道路も、固く①鋪装されてしまっている。はだしのまま、砂利（じゃり）の多いこの道を駈（か）けて通学させAられた小学生の頃の自分を、B急に②なまなましく彼は思い出した。あれは、戦争の末期だった。彼はいわゆる疎開児童として、この町にまる三カ月ほど住んでいたのだった。――あれ以来、おれは一度もこの町をたずねたことがない。イその自分が、いまは大学を出、就職をし、一人前の出張がえりのサラリーマンの一人として、ウこの町に来ている……。

東京には、明日までに③帰ればよかった。二、三時間は充分にCぶらぶらできる時間がある。彼は駅の売店で煙草（たばこ）を買い、エそれに火を点（つ）けると、ゆっくりと歩きだした。

夏の真昼だった。小さな町のD家並みはすぐに尽きて、昔のままの踏切りを越えると、線路に沿い、両側にやや起伏のある畑地がひろがる。彼は目を細めEながら歩いた。遠くに、かすかに海の音がしていた。

（山川方夫『夏の葬列』より）

(1) 文章中の―線部ア～エのうち、他と品詞が違うものを一つ選び、記号で答えなさい。　※エは名詞（代名詞）、他は連体詞「が」を付けて主語になるかで判別しよう。

エ

(2) 文章中の＝線部A～Eの品詞を次から選び、記号で答えなさい。

ア　名詞　　イ　動詞　　ウ　形容詞　　エ　形容動詞　　オ　連体詞
カ　副詞　　キ　接続詞　　ク　感動詞　　ケ　助詞　　コ　助動詞

A	B	C	D	E
コ	エ	カ	ア	ケ

(3) 文章中の波線部①～③の活用形を次から選び、記号で答えなさい。

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形
エ　連体形　　オ　仮定形　　カ　命令形

①	②	③
ア	イ	オ

中国２　「文法」に関する問題⑥　解答

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「Aああ、あなたは気が狂ったか。　Bそれでは、うんと走るがいい。ひょっとしたら、間に合わぬものでもない。走るがいい。」

言うにや及ぶ。まだ陽（ひ）は沈まぬ。最後の死力を尽して、メロスは走った。

メロスの頭は、からっぽだ。何一つ考えていない。ただ、わけのわからぬ大きな力にひきずられて走った。陽は、Cゆらゆら地平線に没し、まさに最後の一片の残光も、消えようとした時、メロスは疾風の如く刑場に突入した。間に合った。

「待て。その人を殺してはならぬ。メロスが帰って来Dた。約束のとおり、いま、帰って来た。」と大声で刑場の群衆にむかって叫んだつもりであったが、喉（のど）がつぶれて嗄（しわが）れた声がE幽（かす）かに出たばかり、群衆は、ひとりとして彼の到着に気がつか①ない。すでに磔（はりつけ）の柱が高々と立てられ、縄を打たれたセリヌンティウスは、徐々に釣り上げられてゆく。メロスはそれを目撃して最後の勇、先刻、濁流を泳いだように群衆を掻きわけ、掻きわけ、

「私だ、刑吏！　殺されるのは、私だ。メロスだ。彼を人質にした私は、Fここにいる！」と、かすれた声で精一ぱいに叫びながら、ついに磔台に昇り、釣り上げられてゆく友の両足に、齧（かじ）りついた。群衆は、どよめいた。あっぱれ。ゆるせ、と口々にわめいた。セリヌンティウスの縄は、ほどかれたのである。

（太宰治『走れメロス』より）

(1)　文章中の―線部①と同じ品詞の「ない」が使われている文を、次から一つ選び、記号で答えなさい。　※①とアは助動詞なので「ぬ」に置き換えられる。

ア　雲がかかっているせいで、今日は月が見えない。
イ　水泳を習っているが、まだ泳ぎはうまくない。
ウ　こんな大きなかぶと虫は、見たことがない。
エ　頑張った割には、得られたものが少ない。

ア

(2)　文章中の＝線部A～Fの品詞を次から選び、記号で答えなさい。

ア　名詞　　イ　動詞　　ウ　形容詞　　エ　形容動詞　　オ　連体詞
カ　副詞　　キ　接続詞　　ク　感動詞　　ケ　助詞　　コ　助動詞

A	B	C	D	E	F
ク	キ	カ	コ	エ	ア